

熊本県立荒尾支援学校進路便り

わーく&らいふ

令和6年度 第8号（通巻第95号） 2月25日発行

■CONTENTS■

【トピック】高等部一般学級の現場実習と進路決定について

高等部一般学級では、1年次の秋から卒業まで5回の「現場実習」を体験し、徐々に学校から社会へのイメージがもてるようになります。現場実習とは、生徒の進路希望に応じた実習先で、2週間、作業や活動を体験するものです。今回は、各学年ごとに取り組む実習の様子を紹介します。

■高等部一般学級1年生 校内から校外へ

「はたらくの入り口」初めての実習

1年生は、働くことを経験する最初の段階として現場実習に取り組みました。初めての実習は、全員が福祉サービス15箇所（生活介護6、B型事業所5、A型事業所3、移行支援1）で各自終日働く活動に取り組み、働くことの大切さや大変さを実感しました。



■高等部一般学級2年生 「はたらくを広げる」実習

2年生の現場実習は、実習を通していろいろな経験を積み、自分の可能性の幅を広げることを目的にしています。企業も含めて進路希望の場22箇所（生活介護5、B型事業所6、A型事業所5、移行支援1、一般企業5）で現場実習を行いました。

実習後は、事後学習や実習先からの評価を参考に、働くことの意味を確かめ、自分を顧みながら進路の方向性を見極めていきます。



■高等部一般学級3年生 「進路を選ぶ・決める」実習

3年生の実習は、いよいよ進路を決めるための実習です。希望する施設



や仕事内容がある企業等での実習を通して、利用や就職の可否について実習先から評価をいただく貴重な場です。実習後は、三者面談で丁寧な振り返りをし、進路を決定していきます。

3年生は全員、進路の方向性が決まり、卒業後の利用（就職）に向けた引継ぎが始まっています。

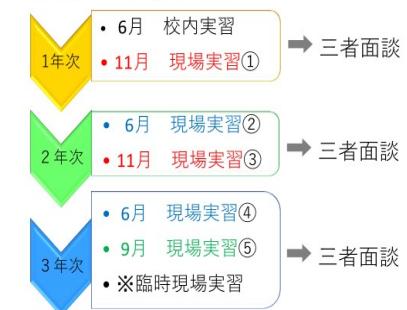
■進路決定へ 実習と面談の繰り返しで、本人に合った進路に迫ります。

実習の成果や課題を基にして話し合う三者面談では、実習先からの外部評価で明らかになった生徒の適性や働く力の段階から「生徒にぴったりな進路」について本人・ご家族・学校で共通理解を図っていきます。

実習先からの外部評価は厳しい場合もありますが、実習と三者面談の繰り返しによって、卒業までに生徒たちにぴったりな進路先を探していくのが、特別支援学校の進路指導です。実習は、進路が決まるまで繰り返し実施します。

また、三者面談は、就職や福祉サービスの利用に向けた必要な手続きについて知る大切な機会となります。

現場実習実施時期



<編集後記>

実習の度に事前挨拶や目標宣言会、報告会へのご参加ならびに実習期間中はご支援・ご協力をいただき、ありがとうございました。

高等部一般学級では、進路に関する行事が多く、保護者の皆様のご協力が欠かせません。今後ともどうぞよろしくお願いします。



★進路に関する疑問質問は、上のQRコードからお寄せください。